## 平成27年度

# "萌える天北オロロンルート"活動報告

- 1. ルート運営活動計画の進捗状況
- 2. 活動団体の活動状況及び課題
- 3. ルート運営活動計画の推進体制の状況及び課題
- 4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告者:代表 西 大志 報告年月日:2016/3/28

					H27			
	ルート(エリア)運営活動計画方針	ルート(エリア)運営活動計画活動内容	活動名	主催	活動実施日	参加人数	活動状況 資料番号	総括
			フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)		
			送り火フォトコンテストの開催	-	_	_		
			シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテス ト	シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコン テスト実行委員会	平成27年7月1日~9月15日 (応募期間)	23人(主催者側)/応募 者数37人·応募作品数 140作品		
			景観診断プロジェクト	-	-	-		景観形成についての総括 ・地域のすばらしい景観雄発掘に注目し、 フォトコンテストを通じた素材の集積を実施
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	風景との出会いの演出	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-		しており、活動を通じて、自分たちの住む地域のよさや美しさを改めて認識する場となっている。 ・今年で4年目となるフィルムコミッションか
			ワークショップの開催	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年7月23日	25人(主催者側) 13人(一般)		ら学ぶ新たな観光開発事業はこれまでに 集積した画像素材を活用し、SNSによるPR 活動を継続しているものの、今後、これら の素材を活かした観光開発が課題となって いる。 ・今年度で2回目となった3ルート連携フォト
景観			風景街道サミットinあさま (ルート代表がパネルディスカッションに参加)	_	_	_		コンテストでは、昨年度よりも徐々に応募者数、応募作品数とも増加しており、定着化が進んだ。数多くのすばらしい景観素材を収集することができるとともに、他のルートのよさを知る機会にもなっている。3年間の
			風景街道テーマ別意見交換会 (風景街道の意見交換会に参加)	_	_	_		継続を予定しており、次年度も実施予定である。 ・今年度も、シーニックカフェとして登録した。 今後は、管内でのカフェの運用方法などをど
			シーニックカフェの登録	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年6月	8人		うするのかの検討が必要となっている。 ・萌天の森では、植樹樹木の移植と新たな 苗の植栽活動を行った。移植後も生長が 確認されており、継続した観測と今後の移 植などを検討している。
			エゾカンゾウ植栽プロジェクト	_	_	_		
		花とみどりの景観づくり	菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	_	_	_		
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年5月~10月	18人(主催者側)	A - 3	
		愛着と誇りの醸成	景観診断プロジェクト	_	_	_		

ルート名称: 萌える天北オロロンルート   報告者:代表 西 大志	報告年月日:2016/3/28
-----------------------------------	-----------------

					H27				
		地場産品の魅力づけ	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成27年6月20日	50人(主催者側) 800人(一般)			
		地物性品の配列列	萌天焼の開発プロジェクト	萌天サポーターズクラブ	平成27年6月20日、平成28年 2月28日	20人(主催者側) 250人(一般)	A - 2		
	食 自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	新メニューの企画	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成27年6月20日	50人(主催者側) 800人(一般)			
		利/ユーの正画	萌天焼の開発プロジェクト	萌天サポーターズクラブ	平成27年6月20日、平成28年 2月28日	20人(主催者側) 250人(一般)	A - 2	食についての総括 ・今年で8回目を迎えるひらめ底建網オー ナープロジェクトは、地元の活動団体が中 心となって継続的、発展的な取り組みを実 施している。出漁日に実施している主に	
食		力の	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト)	ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会(遠別漁協、遠別町産業振興公社、エフエムもえる)	平成27年6月20日	50人(主催者側) 800人(一般)		オーナーを対象としたイベントでは、地域住民や一般参加者も増えつつあり、多数の方の参加を得ている。 ・今年度は、候補ルートの時から活動していた地域食材を用いた新メニューの企画と	
			ワークショップの開催	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年7月23日	25人(主催者側) 13人(一般)	して、ルート内の食材を具材としたたこ焼き 「萌天焼」の開発に取り組んだ。資金面の 確保に課題があり、ルール作りや普及啓発 に向けた検討を行う予定である。		
		地域ブランドの構築	チカホでのシーニックPRイベントにて地域 特産物の販売実施	-	-	-			
			萌天焼の開発プロジェクト	萌天サポーターズクラブ	平成27年6月20日、平成28年 2月28日 20人(主催者側) 2月28日 250人(一般)	A - 2			
			情報受発信プロジェクト⑤ ~萌か留た~	地域情報受発信システム実行委員会	平成27年10月~平成28年3月	15人(主催者側)/配布 枚数4800枚程度			
			菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	_	-	-			
		クリーンエネルギーのイメージづくり	フォーラム開催プロジェクト	_		-			
								環境保全についての総括 ・萌天の森では、植樹樹木の生長が悪いこ	
理接很么	地球に優しい「くらしぶり」のお手本づくりと促進		萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年5月~10月	18人(主催者側)	A - 3	とと、植樹木の間引きが必要であることから、生長木の移植と新たな苗の植栽活動を 春に実施した。植樹活動では、各地の幹事	
· 块块体 =	地球に優しいくらしふり」のの子本 うくりと促進	ゴミ対策の取り組み	-	-	-	-		メンバーが参加して共同で作業を行い、定    例化についても議論された。移植木につい    ては、移植後も生長が確認されており、継	
			エゾカンゾウ植栽プロジェクト	-	-	-		続した観測とともに、今後、新たな移植などを検討している。	
		身近な生態系の保全・復元	萌天の森プロジェクト	前える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年5月~10月	18人(主催者側)	A - 3		
			天塩イトウシンポジウム(共催)	-	-	-			

ルー	ト名称: 萌える天北オロロンルート	│報告者∶代表  西  大志	報告年月日:2016/3/28

					H27		
		ロングドライブのサポート	景観診断プロジェクト	-	-	-	
			フォーラム開催プロジェクト	-	-	-	
			萌天の森プロジェクト	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年5月~10月	18人(主催者側) A - 3	レクリエーションについての総括 ・レクリエーションの活動については、今年
			情報受発信プロジェクト⑤ ~萌か留た~	地域情報受発信システム実行委員会	平成27年10月~平成28年3月	15人(主催者側)/配布 枚数4800枚程度	で2回目となる地域イベントに参加し、シーニックのPR活動を通じで、地域内外の方に情報発信を行う機会を持つことが出来た。・今年は、シーニックについて、また、ルート
レクリエーション	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力 づくり	身近なアウドアの紹介	_	_	_	_	内の資源と課題について、再認識するとと もに、活動メンバーを増やすため、ワーク
			フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)	一ショップを開催した。行政連絡会議と同日開催とし、行政関係者にも参加してもらうことで、ルート活動を知ってもらう機会ともなった。 ・今後は、ワークショップで得られた知見を
			送り火フォトコンテストの開催	_	_	_	ベースに、地域情報受発信プロジェクト等 での活用を検討している。
		各種カルチャー活動による交流	エゾカンゾウ植栽プロジェクト	_	-	-	
			菜種・ヒマワリ クリーンエネルギープロジェクト	-	-	-	
			えび地酒まつりでのシーニックPR展示	増毛えび地酒まつり実行委員会	平成27年5月30日・31日	414人(主催者側) 34,000人(一般)	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告者:代表 西 大志 報告年月日:2016/3/28

			H27								
		田山 次派 の 保 人 上 江 田	ワークショップの開催	萌える天北オロロンルート運営代表者 会議	平成27年7月23日	25人(主催者側) 13人(一般)	A - 1				
		歴史資源の保全と活用	情報受発信プロジェクト⑤ ~萌か留た~	地域情報受発信システム実行委員会	平成27年10月~平成28年3月	15人(主催者側)/配布 枚数4800枚程度					
		次世代への歴史伝承	_	_	_	_		歴史・文化についての総括 ・3年目となる萌か留たについて、様々な活用の展開が見られ、徐々に広がりを見せつ			
歴史・文化	先代の暮らしぶりと新たな価値観を将来に伝え 楽しむ		フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開発事業(フォトコンテスト作品展示)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)		つある。今後は、他の情報発信ツールとと もに、地域独自の生活文化を知るきっかけ となるツールとして、展開していきたいと考 えているが、資金の確保が課題となってい る。			
		独自の生活文化の発見	送り火フォトコンテストの開催	_	_	_					
			シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテス ト	シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコン テスト実行委員会	平成27年7月1日~9月15日 (応募期間)	23人(主催者側)/応募 者数37人·応募作品数 140作品					
				地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	年数回発行	25人(主催者側)		地域づくりについての総括			
				地域情報受発信システム実行委員会 留萌観光連盟	通年	25人(主催者側)					
		方針に関わる活動	情報受発信プロジェクト③ ~道の駅・シーニックカフェスタンプラリー ~	萌える天北オロロンルート	平成27年6月20日~11月3日	15人(主催者側) 1,029人(一般)		・オロロンまっぷを中心に、様々なツールを活用した管内のよさや旬の情報は真の取り組みが、地域の内外に浸透しており、地域づくりの取り組みが深まっている手ごたえを感じている。課題として、継続的な情報発信のための資金の確保などが挙げられる。 ・このほか、交流人口の拡大や、ルート外、都市圏との地域交流についても取り組みが必要とされている。			
全体	上記内容全体の方針に関わる活動			地域情報受発信システム実行委員会 留萌開発建設部	年数回発行	6人(主催者側)					
			情報受発信プロジェクト⑤ ~萌か留た~	地域情報受発信システム実行委員会	平成27年10月~平成28年3月	15人(主催者側)/配布 枚数4800枚程度					
				地域情報受発信システム実行委員会 北海道開発技術センター	平成27年11月~平成28年2月	10人(主催者側)	E催者側)/配布 4800枚程度				
		羆道プロジェクト	_	_	_						
		フィルムコミッションから学ぶ新たな観光開 発事業(SNSを活用したPR活動)	苫前町商工会青年部	通年	12人(主催者側)						

### 萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名:ワークショップの開催

【概 要】シーニックバイウェイ北海道の取組みが10年目を迎え、様々な見直しが進められていることや、ルート内の活動に参加するメンバーの新たな開拓を目指し、萌える天北オロロンルートのこれからの10年に向けてと題し、ワークショップを開催した。当日は、行政連絡会議と合わせて実施し、行政関係者への参加も呼びかけ、推進協議会事務局(和泉晶裕氏)にお越しいただき、シーニックバイウェイに関する講演をいただいた後、ワークショップを開催した。ワークショップでは、ルート内の地域資源・課題・人的資源を参加者にあげていただき、萌天のこれからについて議論していただいた。行政関係の方も多数参加いただき、盛況であった。ワークショップでの意見を参考に、今後の活動を進めていく予定である。

【日 時】平成27年7月23日(木)

【場 所】留萌開発建設部1階会議室(留萌市)

【主 催】萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【参加人数】38名(うち、地域メンバー16名、行連参加者10名)



和泉氏による講演風景



ワークショップでの議論



テーブルごとの発表風景

### 萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名:ルート内の食材を活用した『萌天焼』の開発

【概 要】候補ルートの時から続いているルート内の「食のブランド化」に向けた取組みの一環として、管内の様々な食材を具材に使ったたこ焼き「萌天焼」の開発に向けた検討を行った。今年度は、地域のイベント(ひらめオーナー(遠別町)と凧あげ大会(苫前町))で、実際にたこ焼きを作って販売した。

具材によってやけ具合に差が生じ、販売待機の時間が出来たり、焼き担当者が多数 必要であったことなどから、8個入りで、1種類ずつ地域の食材を入れたたこ焼きを 制作したが、2回目は4種類の具材で2個ずつ入れるなど、工夫を重ねている。

今後は、たこ焼きの具材に適した食材を検討するため、試食会の開催や、将来的に 地元のイベント等で実施してもらえるよう、アピールポイントの整理など、工夫を 重ねていく予定である。

【日 時】平成27年6月20日(土)、平成28年2月28日(日)

【場 所】遠別漁港(遠別町)、道の駅風W(ふわっと)とままえ(苫前町)

【主 催】萌天サポーターズクラブ

【参加人数】活動従事者:延べ約20名



萌天焼を焼く様子(6月)



販売風景(6月)



萌天焼(2月)



萌天焼に並んでいる人たち(2月)

### 萌える天北オロロンルート

Moeru Tempoku Ororon Scenic Byway

活動名: 萌天の森の移植・植樹活動

【概要】シーニックの森に登録されている「萌天の森」は、平成19年に植樹してから8年が経過し、これまで草刈等の維持管理を行ってきたが、植樹木同士が近接していたり、植樹木の生長がよくないことから、今後の活動について検討を進めてきた。今年は、植樹場所のすぐ近くの生育の良い樹木がある場所に植樹木のいくつかを移植するとともに、新たに苗を植えることとし、5月に植樹活動を行った。

移植木、苗木ともに、7月の草刈作業及び10月の点検時にも、ほとんどの樹木が青々と茂り、生長が確認されている。今後も、生長状態を確認しつつ、次年度以降の維持管理計画を検討する予定である。

【日 時】平成27年5月14日(木)~10月

【場 所】天塩郡遠別町丸松

【主 催】萌える天北オロロンルート運営代表者会議

【参加人数】18名



専門家による植栽時の留意点解説



土をこぼさないように移動中



苗周辺の土の踏み固め



草刈作業後の移植木(7月)

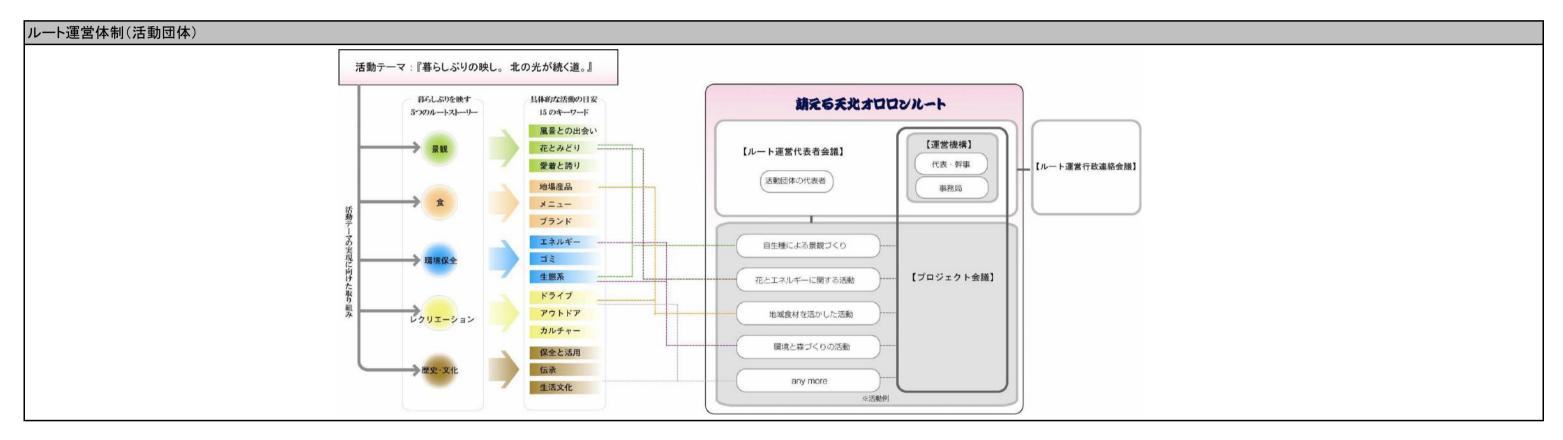
ルート名称: 萌える天北オロロンルート

報告者:萌える天北オロロンルート 代表 西 大志

報告年月:2016/3/28

#### 活動団体

増毛町観光協会、増毛漁業協同組合、増毛町商工会、ゆうゆうマーシーの会、豊かな森川海人をつくる増毛実行委員会、新星マリン漁業協同組合、南るもい農業協同組合、留萌商工会議所、社団法人留萌青年会議所、NPO法人留萌観光協会、株式会社エフエムもえる、小平町観光協会連合会、小平町商工会、小平行来、苫前町観光協会、苫前町商工会、苫前町農業協同組合、北るもい漁業協同組合、羽幌町観光協会、羽幌町商工会、オロロン農業協同組合、初山別村商工会、初山別村観光協会、遠別町観光協会、遠別商工会、遠別漁業協同組合、株式会社遠別産業振興公社、天塩町観光協会、天塩町農業協同組合、天塩商工会、天塩川を清流にする会、幌延町観光協会、幌延町商工会、幌延町農業協同組合、NPO法人サロベツ、地域情報受発信システム実行委員会、留萌観光連盟、萌天サポーターズクラブ 全38団体



基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
ルート運営代表者会議(総会)			● 6/24										
幹事会		<b>●</b> 5/14	<b>6</b> /16				10/28				<b>o</b> 2/3		
プロジェクト会議	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	•	
その他会議等				● 7/23 ワークショップ								● 3/8 道北ルート会議	

ルート名称: 萌える天北オロロンルート 報告者: 留萌開発建設部 報告年月: 2016/3/28

基本方針	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
行政連絡会議の実施				• 7/23									

### 4. ルート運営行政連絡会議の取組状況及び課題

ルート名称: 萌える天北オロロンルート	報告者: 留萌開発建設部	報告年月:2016/3/31
ルート右 柳:明える大礼オロロンルート	拟古名:由明用先建议的	報音平月:2010/3/31

	ルート(エリア)運営活動計画方針	平成27年度の活動内容	活動実施日	実施機関	成果及び課題	総括	活動No
景観		「3ルート連携フォトコンテスト」の作品巡回パネル展による広報活動(★) 主催:シーニックバイウェイ3ルート連携フォトコンテスト実行委員会	平成27年7月1日 ~7月31日 平成27年10月1日 ~10月31日	小平町、苫前町、 羽幌町、初山別村 、天塩町、幌延町	「3ルート連携フォトコンテスト」応募作品の巡回パネル展を「道の駅」おびら鰊番屋、風Wとままえ、ほっと♡はぼろ、☆ロマン街道しょさんべつ、天塩町役場、幌延町役場で開催し、広報活動に協力した。 今後も、継続してルートの活動を広く周知することが必要。	地域景観の紹介や地域景観づく りの継続した取り組みが定着して -	
	愛着と誇りを持てる郷土の景観の保全と創出	エゾカンゾウ植栽プロジェクト 主催: 萌える天北オロロンルート	平成27年6月 ~10月	留萌開発建設部	自生種の風景の復元を目指して、「エゾカンゾウ」の種取り・苗作り・植栽の活動 を実施した。	いる。 今後も、効果的なPRや、取り組 みを地域全体に展開できる体制作	
		萌天の森プロジェクトでの植樹及び移植 主催: 萌える天北オロロンルート	平成27年5月	留萌開発建設部	萌天の森プロジェクトでの植樹及び移植活動に留萌開発建設部の職員が参加した。	りを進めたい。	
食	自然の恩恵である地元食材のブランド化と魅力の発信	ひらめ底建網オーナープロジェクト (食材オーナー制度プロジェクト) における広報活動 主催:ひらめ底建網オーナーin遠別実行委員会	平成27年6月20日	留萌開発建設部	のドノイノ情報机やオロロンようふ及い明える人北オロロンルード  追い歌・ノー	地域イベントを活用したルートの PR活動が定着している。 継続して認知度向上に向けたPR 活動を進めたい。	
レクリエー 暮らしに根ざしたもでなしによる暖かい交流の魅		えび地酒まつりでのシーニックPR展示による広報活動 主催:増毛えび地酒まつり実行委員会	平成27年5月30日 ~5月31日	留萌開発建設部	増毛えび地酒まつりにおいて、萌える天北オロロンルートの活動紹介とシーニックバイウェイ北海道の広報やパネル展示、地域イベント情報を提供するドライブ情報紙やオロロンまっぷ及び情報紙るもい食楽歩を配布した。 今後も、ルートの活動やシーニックバイウェイ北海道の更なる認知度向上に向けた取り組みが必要。	新たな地域イベントへの参加及	
	暮らしに根ざしたもてなしによる暖かい交流の魅力づくり	い交流の魅力づくり				び地域とのコミュニケーションによ り継続して交流・振興を深めたい。	
		「るもい食楽歩」ホームページのリンク及び情報紙 「るもい食楽歩」の配布 発行・編集:留萌観光連盟	通年	町、羽幌町、初山別村、遠別町、	ルートの活動や地域情報の発信を目的として、「るもい食楽歩」のホームページ と留萌開発建設部及び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を 行うとともに、情報紙「るもい食楽歩」を留萌開発建設部、各自治体の庁舎及び道 の駅で配布した。		
		「萌える天北オロロンルート: 道の駅スタンプラリー」 との連携 主催: 萌える天北オロロンルート 6/20~11/3	平成27年6月16日 ~12月24日	小平町、苫前町、羽幌町、初山 別村、遠別町、天塩町、留萌開 発建設部	歯明用煙    道の駅との調整や記者発表による広報活動を実施した	まちづくり、地域づくりをテーマと したルートの様々な活動は、継続 した取り組みにより地域内外に浸	
~~^A	景観、食、環境保全、レクリエーション、歴史・文化全体の方針に関わる活動	ドライブ情報紙の発行 発行・編集:地域情報受発信システム実行委員会、 留萌開発建設部	通年	留萌市、増毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、 天塩町、幌延町、留萌開発建設 部	各地域のイベント情報を提供し、ドライブ情報の作成に協力した。	透している。 今後も、これらのツールを有効に 活用し、ルート活動や地域資源の	
		萌える天北オロロンルートホームページのリンク	通年	留萌市、增毛町、小平町、苫前町、羽幌町、初山別村、遠別町、 天塩町、幌延町、留萌開発建設 部	ルートの認知度向上を目的として、ルートのホームページと留萌開発建設部及 び各自治体のホームページをリンクして連携した広報活動を行った。		